お父さん、ぼくの絵見て
―保育園で作品展示会―

村内の三保育園、横越中央双葉、それに小杉児童館で十一月十四日、園児の作品展とバザーが開かれました。

園児の保育園での生活が絵や工作などで良く現れ、親たちの関心も深いところから子供連れで訪れる人が多くいました。

絵やダンボールを使って車を作った工作、くだものかごなどが展示され、子供に手を引かれ園児室に入るお母さんやお父さんに「僕の作ったのこれだよ」と指を差す子供。その作品に目を細めうれしそうな親達の顔が園内のあちらこちらで見られました。また父母の会で行ったバザーには親子でカレーライスやサンドイッチなどを食べる姿も多く見られ、保育園はこの日一日親子で楽しい賑わいをみせていました。

なかなかよいできだぞ

12月10日は人権デー

昭和二十三年十二月十日の国連総会で世界人権宣言が採択され、以来毎年、人権についての理解と意識を高めるため、この日を「人権デー」と定めています。

私たちは、幸福で生きがいのある生活をしたいと願っていますが、そのためにどうしても欠かせないのが「人権」です。

つまり、「人権」はすべての人が、生まれながらにして持っている能力を、日々の生活の中で十分に生かし、より幸福な人生をおくるために、欠くことができない権利なのです。

憲法で、「基本的人権」が保障されているのもそのためです。人のいうことを少しも聞かず、自分だけの意見を主張したり、勝手な行動をしたりすることは他人の権利を傷つけることになるわけです。

このように、他人の人権を侵さない、また自分の人権も侵されない、という「人権」の尊さを、お互いによく理解し、明るい社会をつくるよう努めたいものです。

人権の共存＝互いに相手の立場を考えて、豊かな人間関係をつくりましょう。

野犬などの引取所が変ります
―県央動物保護管理センター開設―

西蒲原郡中之口村に県央動物保護管理センターが十一月十六日開設され、従来新津保健所で野犬の取締りや引き取りを行ってきましたが、これからは同センターの定期巡回日に役場で引き取ることになりました。引き取りを希望の方は下記の定期巡回日の前日までに役場保健福祉課へ連絡ください。また、ねこの場合は麻袋など耐久性のある袋に入れてください。

なお、直接センターに搬入する場合は、電話をしてください。（〇三五）七五一四〇

引き取りに必要なもの

㈠犬、またはねこの引き取り申請書（役場保健福祉課に用意してあります）

㈡県収入証紙（千円）と印鑑。

定期巡回日（昭和57年度）

年月日	時間	場所 担当課
57年12月20日	午前9時30分までに搬入	役場 保健福祉課
58年1月24日		
2月28日		

《事業所訪問》

有限会社 田村工業所
ビルラッシュで成長
社内はカラオケで明朗

鉄筋コンクリートなどの芯になる「鉄筋」、その鉄筋加工業を営む田村工業所（代表取締社長田村則男）は、昭和二十九年従業員五人の個人会社として創業。以来、戦後復興、神武景気高度経済成長、と続くビルラッシュとともに成長してきたといえます。

昭和五十二年には、有限会社に衣替えして工場も駒込（敷地五、六〇〇㎡）に移し、従業員六十人で年間三千～四千㌧前後の鉄筋加工をするまでになりました。

会社の営業は、鉄筋加工のほか、建設業として土木建築、基礎工事も手がけますが、仕事の九十％以上が鉄筋加工で専ら特定企業などからの受給で成り立っています。

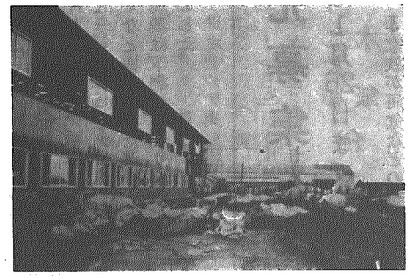
今、業界が不況だということから、先ず景気を聞いてみますと、「不況といっても私の会社は特定企業の受給が主ですから仕事は影響ないようですが、しかし単価があまり上ってないようだから、やはり景気はよくないですね」と田村社長の弁。

鉄筋加工という仕事は、必らずしも高度な技術を要しないことから、仕事は五班に組織されている作業班に降し、決められた範囲をグループが一貫して責任施工する形の、いわば下請方式をとっています。従って自分たちの努力や工夫いかんで「配当が有利」という励みともなり、また、グループ間に仕事の繁閑がある場合は、協定労賃で相互に応援するといったルールもあって、大変うまくいっているとのこと。

これも一つの特徴だと思いますが広い従業員の休憩室にカラオケ装置をセットしておき休憩時などにはみんなでカラオケを楽しんでいます。

今まで一パイ飲んではカラオケバーなどへ走ったものが、今はここで歌ったり飲んだりして親睦も図られ社内も朗らかになって大変結構とのこと。

もう一つといってはなんですが、社長初め従業員の殆どが農家の主人。つまり最も安定した兼業農家同志であることも、プラス要因に挙げてよいと思います。


高度な加工と保管をかねる
1,000㎡の工場を増築中

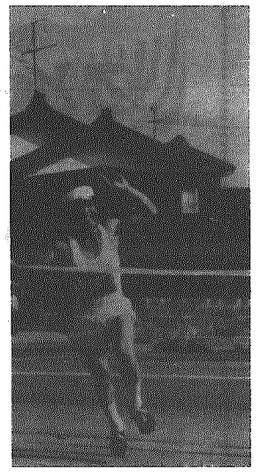
ベテラン木津チーム
二回目の優勝
―村内一周駅伝大会―

公民館主催第五回村内一周駅伝大会が十一月十四日、十二チーム、八十四名が参加して行われ木津チームが優勝しました。

当日は、絶好の晴天に恵まれ、選手たちも赤、青、黄など色とりどりのたすきをかけさっそうとして集合し、十時三十分横越農協前をスタートしました。

十九・六キロを一チーム七名でリレーするこの駅伝は、選手中第一回から出場している最年長の栗山利助さん（55才）が頑張る木津チームを始め毎回各部編成の中学生チームなどの活躍が期待されました。

スタートしてから十・九キロ地点の横越分館付近までは、横中バスケットB、木津チーム、横越下スポーツクラブの順で三～四㍍の近差でせりあっていましたが、十二キロ地点の小杉地内に入ると木津チームが先頭に立って、二位の横越下スポーツクラブを離し藤山地点の最終ランナーへのバトンタッチでは約五百㍍の大差を付け、そのまま農協前のゴールに一時間十分一秒でゴールインし、木津チームが二回目の優勝をかざりました。


Vサインで余裕みせて
ゴールイン（木津大森選手）

下越の強豪が参加
初の横越村長杯争奪
バスケットボール大会
五泉クラブが獲得

十一月七日、横越村体育協会主催、第一回横越村長杯争奪バスケットボール大会が小・中学校体育館で行われ五泉クラブが優勝しました。

横越村はバスケットボールが盛んなものの村内で対外試合を開く機会がなかったことから他市町村に参加を呼びかけ、一般の人達からバスケットボールのスピードと躍動的な技を見てもらい大いに関心を高めようと開いたものです。当日は水原クラブ、亀田クラブ、豊栄クラブ、五泉クラブ、それに遠くは村上クラブ、朝日クラブ（朝日村）が参加、また村からは横門クラブとYOBの二チームが加わり八チームで熱戦をくり広げました。

試合はトーナメント方式で行われ、予想通り五泉クラブと豊栄クラブが勝ち進み80対32で五泉クラブが勝ち、横越村長杯を手にしました。

本村の横門クラブは対外試合などに数々の優勝経験をもち強豪といわれてきましたが二回戦で惜しくも五泉クラブに敗れ三位となりました。

優勝　五泉クラブ
二位　豊栄クラブ
三位　水原クラブ
〃　横門クラブ

阿賀野吟社
会員の記念句碑建立

阿賀野吟社（代表市村正）では横越下宮原にこのほど句碑を建立。この除幕式が十一月二十三日、渋谷村長、田中教育長らを来賓に招き行われました。

この句碑は、幅五㍍、高さ一・九㍍の大きな御影石にアフリカ産の黒御影石をはめこんだ重さ約十五㌧もある立派なものです。

阿賀野吟社は、公民館の句会などに投稿をしていた横越下地区中心の二十人が昭和五十三年に発足した俳句の同好会で、同会は今年五周年を迎えた記念と、会員がこれまでに三人死亡していることから追悼もかね今年六月から計画してきたものです。

建立委員代表の田村清次郎さんは、「碑に刻んだ二十人の俳句は、自分達が今までの作品から選んだもので、石は安田町草水の山から堀り出した御影石で畳四枚半ほどもあり、運搬は大変でした。また宮原の建立に関係者からは快よく理解して頂き台座の基礎などは会員の手作業です。阿賀野吟社もこれを機会に句作に意欲を燃やしています。」と感慨深く語っていました。

宮原の薬師様に句碑建立の除幕式

第62回 全国商工会珠算検定試験合格者

一級　桐生　篤（川根谷内）
二級　榎本三重子（横　越）
〃　大森　青（木　津）
三級　阿部由美子（横　越）
〃　神田　晴美（横　越）
〃　泉　奈緒子（沢　海）
〃　立川　淳一（沢　海）
三級　中川　恵（小　杉）
四級　遠藤　明美（二本木）
〃　久保　薫（横　越）
〃　内山　隆之（木　津）
〃　佐藤　美保（木　津）
五級　岩田江利子（駒　込）
〃　飯野　洋子（二本木）
〃　長谷部幸恵（川根谷内）
〃　長谷部由美（川根谷内）
〃　佐藤　栄（横　越）
六級　熊木みどり（二本木）
〃　熊木　大輔（二本木）
〃　森山　健史（横　越）
六級　今井めぐみ（木　津）
〃　江口　美佳（木　津）
七級　羽賀　淳（川根谷内）
〃　鈴木　淳（川根谷内）
〃　市村　純子（横　越）
〃　熊倉　桜（木　津）
〃　今井智恵子（木　津）
〃　阿部　正美（木　津）
〃　小野塚波子（木　津）
八級　橋本　大輔（川根谷内）
〃　大森　里美（木　津）
〃　永木佳一郎（木　津）
〃　石井　靖子（木　津）